

Caravan ticket

キ ャ ラ バ ン

チ ケ ッ ト

written by yu-ki



何となく 4137km

ヒツチハイクして

日本縦断

和田アキヲも絶賛

『この本におまかせ!!』

オホーツク海を中心に話題騒然

caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

free & crime

～3日目 星を待つ駅のホームで～



ゆき



VV

「埃かぶって古びた電灯と星空が駅のホームから見えて
っていうちよいレトロな雰囲気ガッツリ吸い込まれたよ。
石炭積んだ機関車が汽笛を鳴らしながら、
来てもおかしくない感じだった。
体震えて、鳥肌だったよ。マジ。」



photo from post card

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

ホテルサイゼリアを後にして、先へ進もう。

おもむろに財布を確認してみたら、

昨日のたこ焼きパーティ開催の 3000 円の出費が痛手となり、

残金は 5000 円程度になっていたんよね。(笑)

そのお金でカプセルホテルに泊まれば良かったと思うかもしれないけど、それは間違い。

カプセルホテルは思い出に残らないが、たこ焼きは思い出に残る。

そういった大切なものを考えながら、俺たちは進んでいきたいんよね。

ま、そもそも金持って来いって話だけどさ。(笑)

最悪、道端のプチトマトを食べればいから、きっと大丈夫。(笑)

んで、広島向かう途中に俺たちは神戸へ立ち寄る事としたんよね。

理由は『日本書紀』

崇神天皇 7 年 11 月 8 日 (紀元前 91 年 12 月 27 日) 条に

初めて神戸・神地を定めたとされており、これが神戸の起源とされており、これを史実とすることは出来ないものの、

早い時期からヤマト王権や豪族達によって

保障された神社所属の部民があり、

これが神戸の由来であったと考えられている様な街だから

寄って見たかったのだ。※wikipedia より



※google 画像からイメージ、うまそー

しかしながら、この旅で習得したスキルが裏目に出るんだよね。

電車の席に座った瞬間、「**すぐ寝て、終点で起きる**」という、

よくサラリーマンが使う秘奥義。

なぜ終点で起きるのは、現代科学では解明出来ていない。

そんなハイ（灰）スキルの為、気づいたら神戸を寝過ごして、

網干という駅。（笑）

二人『アイヤーッツツ』

もう久々、中華魂が響き渡るよね。

「網干」ってどこやねん。むしろなんて読むねん。

神戸のガス灯が並ぶ港町を見てみたかったが、

戻るのも面倒臭かった為、そのまま広島へと向かう。

電車は東海道線から山陽本線を乗り継いで進むんだけどさ、

「大阪⇄広島間」ってのは「大阪⇄京都間」と全然違ってけっこー遠いんだよ。

かかる時間は大体6時間ぐらい。地理的な感覚が全然無かったから、

ちよいびっくりしたなあ。

勝手なイメージで近いのかなあって思ってたよ。

電車は直通があるワケじゃないから、

ゆ〜き『乗り換え、めんどくせえッー——』

北海道⇄鹿児島間の直通列車作れ、fuck jap！！』

って言いながら（笑）、乗り継ぎを繰り返して、地道に進んでく。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

電車の中では野宿 & ファミレス宿泊で培われたイカした匂いをまとっており、ここで、家から持ってきた洗剤が役に立つ。

次の電車を待ってる間に駅の水道でおもむろに衣服を洗濯した。

洗った衣服をビニールに入れておいたんだけどさ。

車両に他のお客さんが誰もいないときに

ゆ～き『もう、**電車内で干しちゃうか**』

ソノ『常識的には完全にアウトだが、やむをえん』

と非常識にも洗濯した衣服を電車の網棚に干してみた。

こう何時間も電車に乗っていると段々自分の部屋のように感じてきてさ。

幸いなコトに洗剤も「**部屋干しトップ**」だったし。

すると脅威的な速度で車掌さんがやって来て

車掌 A『靴下を車内で干さないで下さい。』

ゆ～き『あつすみません。すぐに片付けます。』

車掌 A『全く、こんな非常識なコトする人いませんよ！！』

ソノ『そうですよね。ホントすみません。』

と言いながら、「実は靴下ではなく**パンツ**でしたー」

とは最後まで言えなかった。

電車の中では相変わらず、ソノと他愛も無い話をしてて、

「本日のソノとの電車内トーク」は

当時流行ってた、池上 彰さんの本「日本がもし 100 人の村だったら」から
「日本村のおきて」というトピックに関して。

皆、この本を読んだコトあるかな??

別にココからアマゾンに飛んで俺に収入が入るとかないのでご安心を。(笑)

日本の人口を 100 人と仮定したら、

人口に関する各数値 (ex. 労働人口、高齢者) が

より現実的なものとして認識するコトが出来るという面白い本なんだよ。

例えばね。

日本の約 1 億 3000 万人の人口のうちさ、

農業を主な仕事にしている人は 290 万人ぐらいなんだって。

この割合で、もし日本が 100 人の村だとすると、

農業を主な仕事にしている人はなんと 2 人になるんよね。

単純に割合で考えているだけだけど、数字って不思議なもので、

こう言われるとより具体的に感じるよね。

「2 人って数字が多いか少ないかは分らんけど、

めっちゃ少ない気がする。

日本の農業って大丈夫なのか??」

って思っちゃうし、多分読んだ人も思ったよね?



日本がもし 100 人の村だったら

池上 彰(著)

caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

この本はこういった面白い視点で日本に関して記述しているんだけど、
その中で日本村ではこんなおきて（ルール）があるよってのがあってさ。
これに関してソノと話してたんだよね。そのおきてってのは・・・

1. yes no をハッキリ言っははいけない
2. 他人の目を気にしろ
3. マニュアルどおりに行動せよ
4. 宗教はいいとこだけをつまみ食いしろ
5. 行列のできる店に並べ
6. 本音と建前をつかいわけよ
7. 均一、標準、平均的になれ
8. 知らない人に会ったらまず笑え

と言った項目でさ。

見てみて、ズバツと「確かに、そうだツ」と思う項目もあれば、
「そんなコトねえツ、大和魂なめんな！！」って、

ちょっと反発しながら見る項目もあつたり、
面白いなあと感じたよ。（笑）

でもね、正直俺はけっこ一当てはまってるなあって感じるんだよね。
根拠は無いけどさ。

ソノ『確かに、行列のできるラーメン屋とか気になるよなあ・・・』

ゆ〜き『ね、いざ食ってみると、けっこー味もフツーだったり。

そんな経験してても「とりあえず人気店に行ってみよ！」とかなるよね。』

ソノ『だよなあ。それと”標準になれ”って

ちょっと近いものがある気がする。』

ゆ〜き『「出る杭は打たれる」とか「大同小異」とか言うけど、

異なるモノに対するアレルギーってのはあるんじゃないかな。』

ソノ『外国の事情を知ってるワケじゃないけど、

少なくともそういった文化はありそうだ。』

ゆ〜き『うん。それが良いか悪いかは、長所短所あると思うけどね。』

確かに、俺の周りには「こんな無計画でやんちゃな旅」

に出る人（アホ）はいない。

もち旅に出るコトが”異”という話では無いけどね。

もしかすると、そういった「おきてにある様な考え方」を変えたくて
旅に出てるのかもしれない。少なくとも俺は

「平均的になりたい」と心から思ったコトは一度も無い。

平均的になるトキは

「他の人もそうしているから自分もそうしよう。不安だし。」

って心の底では思ってる。ホントは

「自分の道を『俺がやりたいのはコレなんだあつ』って叫びながら

自信を持って選びたい」と思ってる。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

この会話をきっかけに旅に出た理由が何となく分かってきた気がするんよ。
旅に出た理由って

「そういった自分の中にある考えを壊したい」

「んで、自分に**自信をつけたい**」

「んで、他人の目を気にせず、目一杯新しいコトに**挑戦していきたい**」

という要素が多分あると思うんよね。

(もちろん、旅そのものを**親友と一緒に楽しみたい**、

ワクワクしたいってのもあるよ！)

そのときは「きつとこの旅を終える頃に何かが変わってるんだ」
って信じてたね。

2～3時間こういった話をしながら、(残りは爆睡 笑)

昼間に出たってのもあって、けっこ一日が暮れてきたんだよね。

ゆ～き『はよ、**粉もん**(お好み焼き) 食べな。』

ゾノ『せやせや。**冗談ちゃうで。**』(まだエセ関西弁がブーム)

とか言いながら、遂に夜になっちゃってさ。

ゆ～き『やべー、寝床どうしよう・・・』

もっと早く出ればと良かったとか思いながらも、

けっこローカル線だと待ち時間も多かったりして、

「**次の電車まで2時間**」とかザラにあるんよね。

待ち時間がけっこーあるときは、

駅前をちょっと散歩したり、ホームで時間を潰したり過ごすんだけど。

中でも、すげえ**オンボロな駅**があっけさ、

基本的に省エネ構成で駅が暗いのなんのって。(笑)

暇だったから、ホームを探検してたんよね。はじっこまで散歩して、

ゆ〜き『けっこー、ホーム自体は広いな〜』

ソノ『ね。でもやっぱ何も無いな』

とか言いながら、ふと空を見上げたんだよ。見たら。

『視界いっぱいの星空』

「埃かぶって古びた電灯と星空が駅のホームから見える」

っていうちょいレトロな雰囲気ガッツリ吸い込まれたよ。

石炭積んだ機関車が汽笛を鳴らしながら、来てもおかしくない感じだった。

体震えて、鳥肌たったよ。マジ。

電車を待つコトを楽しめるって感覚は今まで無かったなあ。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

「星が見えるホーム」とか名付けたら
観光客ドツと来るんじゃないかとか思うぐらい。
んで記念のグッズとかいっぱい売ってさ。
星空Tシャツとか、**四星球サブレ**とか（笑）

俺、大学生の頃、「デザイナー」という言葉に憧れて（笑）
ポストカードを友達の「とみい」と路上で売ってたコトがあったんよ。
とみいのポストカードはめっちゃデザイン性に優れてて、
めっちゃ売れてたんだけど、
デザイナー超初心者の俺は生涯通じて**1枚**しか売れなかったけ。（笑）
誰かの心に響く絵を書けるってのはうらやましかったなあ。

後日、この話のポストカードも作ったんよね。
「星が見えるホームで」って題名の一枚。
一つも売れなかった為、**幻の一枚**と呼ばれている。（哀）
まあそれだけ、俺の中ではインパクトあったよ。めっちゃね。



そんな余韻を感じながら電車内で爆睡していると、やっとこさ広島へ到着。6時間ぐらいかかったかなあ、電車に乗ってるだけだけど、腰痛いわ。

いつもなら、そこから寝床を探しに行く二人だったが、..

ソノ『ケケさん、今日の寝床は。。。』

ゆ〜き『モッフッフ。ソノさん！ここは俺に任せてもらえんかあのう』

と今度は**エセ広島弁**を披露した俺は秘策を残していた。

ここに到着する頃は過酷状況になると想定していたんさ。

俺には大学のテニスサークルぶれめんで知り合った

”**広島出身のまちゃ**”と言うトモダチがいたんよ。

しかも休み中は広島に戻っているそうだ。

”まちゃ”は女の子で非常に面白い良い子だが、

前代未聞のやんちゃさを秘めていて、

周囲からは”**アバズレ**”という名を欲しいままにしていた。

そんなまちゃのご自宅様へ泊まるコトが出来ればと淡い期待を持ちながら、

俺はメモってたケータイ番号に電話してみた。

もちろんケータイは持たないルールだったから、公衆電話ボックスィから。

(めっさ久々使うわ、相変わらず緑ィなオイ)

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

10 円玉をいっぱい用意していざ電話をかける。

トゥルルル。ガチャ

ゆ～き『あ、ゆ～きだけど』

まちや『久しぶり、どうしたの？』

ゆ～き『あのさ、突然だけど今、友達と広島いるんだよ！』

まちや『え、マジで、私も広島だよ～！』

ゆ～き『お～それは偶然。偶然ついでにもし可能でしたら、

まちやさんの閑静なお住まいに泊めて頂く～～

なんて事は出来ませんかでしょうか？』

まちや『えー友達もいるんでしょー、無理だよ～』

ゆ～き『そこを、まちや様の御心で。。。』

まちや『無理無理』

ゆ～き『そこを何とか。。。』

まちや『無理無理』

ゆ～き『。。。』

まちや『。。。』

ゆ～き『。。。』

まちや『。。。じゃあ』

ガチャ。

ソノ『どうだった？』

ゆ～き『ヤッタァ（^O^） / あたい野宿だあ～い好きいつ』

ソノ『あのさ、俺、昔は広島に住んでてさあ、
そんトキ親のトモダチだった夫婦が今も暮らしてるんだけど。

ちよい連絡してみるよ。』

ゆ～き『ど、ど、ど、どっこい！！』

さすがビッグソノさん。あんなあ、男ん中の男じゃけえ。

そして大好き☆ チュツ☆

んで、俺らはソノが昔住んでた頃にお世話になった

”ニシ夫妻”にお会いするコトとなった。

（広島弁覚えて無いから、東京弁で書きまっする。）

ソノ『お久しぶりです。ソノです！！』

ニシ夫人『あら～ホント、久しぶり。大きくなったわねえ』

ソノ『こっちはトモダチのゆうきです。』

ゆ～き『初めまして。ゆうきと申します。お世話になります。』

ニシ夫人『どうも、よろしくねえ。今日は泊まっていっていいから。

そいえばアンタ達晩御飯は食べたの??』

ソノ『いや、まだです。さっき着いたばかりです。』

ニシ夫人『アンタァ、この子達、晩御飯食べてないから、

広島名物のお好み焼き屋でも連れてってあげてよ。』

ニシ旦那『りょうかい。ソノ君久しぶりだね。さあ車に乗んなよ！！』

ソノ&ゆ～き『ありがとうございます！！！！』

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

いきなり来たにも関わらず、すげえ二人とも優しくて、

めっちゃくっちゃ嬉しかったなあ。

けっこー疲れが溜まってたし、安心して眠れるってだけでハッピーだった。

地元で有名な「みっちゃん」って言う

広島風お好み焼き屋に連れて行ってもらった。

店の近くに着いたトキからもう、うまそうな匂いがしててさ。

目の前で「じゅわ〜」ってソースが音を立てながら、香ばしい香りが漂う

「あっつあつの麺」と「ポリューミなお好み焼き」を同時に

口の中に放り込むあの至福の時間。

肉の少し焦げ始めてる部分がめっさ香ばしい味を繰り出してさ。

腹へってたから、めっちゃガッツいたなあ。

これ書いている瞬間もヨダレがダーリンダーリンですわ。ホンマですわ。

ニシ旦那『たーんと食べてくれ！！』

ゆ〜き『いただきまーす♪』

ゾノ『んまー♪』

ゾノ『麺とお好み焼きの説妙かつ繊細な電気リカルパレードが・・・
うまい！！』

ゆ〜き『ソースのコクがまるで地中海に溶け込んだ

何万年もの旨味エキスの様に・・・うまい！！』

ニシ旦那『お前達の言ってるコトは何一つ分からんが、

うまそうで良かった。ゆっくり食えよ。逃げないから。』

俺達の無意味なボケを大人のツッコミでいなして頂きながら、
幸せな時間は続く。

—
ソノ『もう食べれません。。。』

ゆ〜き『ご馳走様でした。』

ニシ旦那『ok、じゃあ家帰るぞ』

あ〜幸せだ。うまいモノを食べて、

こんなに幸せになったのはいつぶりだろうか・・・

ニシ夫人『お帰り、どうおいしかった?? 風呂でも入ってゆっくりしなね。』

ソノ『めちゃおいしかったです。ありがとうございます。』

帰れる場所があるって、なんて幸せなコトだろう。

つくづくそう思った。暖かい家族っていいよなあ〜。

お風呂に入ると、今まで身にまとっていた**悪臭漂う「仙人の衣」**が
剥ぎ取られ、まるで天使の様な二人に進化した。

布団に横になると、すげえ幸福を感じたよ。

あったかいし、床硬くないし、安全だし、虫いないし。(笑)

ゆ〜き『布団で寝れるって素晴らしいよなあ〜。』

ソノ『ですね。』

(次は九州上陸だな、**沖縄**マジ待ってろよ!!!)

と、頭にイメージしながら5分後にソッコー寝てしまったよね。

そして旅3日目の夜が過ぎていく。

caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

this story continues